

平成 17 年度高次脳機能障害支援モデル事業と総括 (国立身体障害者リハビリテーションセンター)

1. 平成 17 年度（5 年度）事業内容

- ア．国リハは、地方支援拠点機関等連絡協議会の高次脳機能障害支援モデル事業（以下モデル事業）運営方針に則り、全国高次脳機能障害支援拠点センターとして、自ら症例を集積し、訓練及び支援の実施について事例収集を進めるとともに支援プログラムの拡充を図り、全国 12 地域の道府県・政令指定都市（北海道・札幌市、宮城県、千葉県、埼玉県、神奈川県、三重県、岐阜県、大阪府、岡山県、広島県、福岡県・福岡市・北九州市、名古屋市）にある地方支援拠点機関等と連携して、高次脳機能障害者の「社会復帰支援」や「生活・介護支援」を重点事項として事業を運営した。
- イ．試行的実践を円滑かつ効果的に行なうために、都道府県・政令指定都市ならびに地方支援拠点機関等の関係者、専門職員、学識経験者等で構成される連絡調整の場として地方支援拠点機関等連絡協議会ならびに企画班、専門委員班、支援コーディネーター班の 3 作業班会議を国リハが中心となって開催した。加えて公開シンポジウム「高次脳機能障害支援モデル事業のまとめと展望」を開催した。
- ウ．国リハの単独の事業として、情報収集提供センターの運用と研修事業を実施した。情報収集提供センターは、高次脳機能障害について関連職種にある者や当事者等が広く情報を共有することを目的として、モデル事業のホームページを国リハのホームページの中に設置し、その中で成果報告書等の主要部分を公開し、地方支援拠点機関等連絡協議会等、研修事業の案内等を表示した。また研修事業については、行政担当者と医療並びに福祉専門職向けの研修を 1 回実施した。

2. モデル事業地方支援拠点機関等連絡協議会委員名簿（国リハ分）

委員長：岩谷 力（更生訓練所長）
企画班長：岩谷 力（更生訓練所長）
専門委員班長：中島八十一（研究所感覚機能系障害研究部長）
委員：岩谷 力（更生訓練所長）
委員：江藤文夫（病院長）
委員：金井 博（管理部長）
委員：吉田静慈（更生訓練所指導部長）
委員：三輪隆子（病院神経内科医長）
委員：菅原美杉（病院主任医療社会事業専門職）
委員：菅野博也（更生訓練所心理専門判定職）

3. 国リハ内モデル事業作業部門編成

モデル事業を推進するため、前年度に引き続き関連部門の職員で構成する高次脳機能障害支援モデル事業検討委員会を運営した。円滑なる事業実施に向け、企画作業部会、評価基準作業部会、訓練プログラム作業部会、社会復帰支援プログラム作業部会、研修作業部会、情報収集・提供センター作業部会を運営した。企画作業部会は当センター内モデル事業遂行に必要な企画に関することを所掌とし、

これを受けて各作業部会はそれぞれの課題に取り組んだ。また病院部会と更生訓練所部会ならびに両者の調整機関である高次脳機能障害連絡会議は協調して事業遂行に当たった。

4. 国リハ内高次脳機能障害支援モデル事業検討委員会及び作業部会委員

ア. 高次脳機能障害支援モデル事業検討委員会委員

委員長：岩谷 力

病 院：佐久間 肇、三輪隆子、浦上裕子

更生訓練所：吉田静慈、野口勝好、山添秀次、長野雅男、杉原憲明

研究所：中島八十一、宮崎隆憲

学 院：青木 実

管理部：金井 博、湯澤茂男

イ. 作業部会委員

(企画作業部会) 岩谷 力、江藤文夫、金井 博、吉田静慈、堀 房子、中島八十一、三輪隆子、菅原美杉、菅野博也

(評価基準作業部会) 中島八十一、浦上裕子、佐久間 肇、小熊順子、四ノ宮美恵子

(訓練プログラム作業部会) 三輪隆子、杉原憲明、山添秀次、三好尉史、渡邊明夫、餅田亜希子、関口 進、山本正浩

(社会復帰プログラム作業部会) 野口勝好、長野雅男、菅野博也、工藤祐司、秋山静江、菅原美杉、北村昭子

(研修作業部会) 牛山武久、湯澤茂男、青木 実

(情報収集・提供センター作業部会) 諏訪 基、宮崎隆憲、中島八十一

(事務局：医事管理課) 中口 豪、菅原克之

5. 平成 17 年度事業費

国リハ事業実施分：26,528 千円

6. 国リハ分モデル 17 年度事業登録者一覧

総数	合計	10
	男性	9
	女性	1
所属	病院	0
	更生訓練所	10
原因疾患の内訳	脳血管障害	0
	外傷性脳損傷	9
	低酸素脳症	0
	脳腫瘍	1
手帳所持	身体障害者手帳	6
	精神障害者保健福祉手帳	2
	未記入	2

新規登録者は 4 名であった。

7. 病院部会

部門間の横断的事業

1 高次脳機能障害リハビリテーションの充実

診療部神経内科、看護部、一訓、二訓、医療相談開発部で取り組んだ。

(1) 高次脳機能障害訓練・指導の実践

当初予定されたモデル事業期間の第3年度までに確立した高次脳機能障害の評価・訓練・指導プログラムを日常診療の中で実践し効果を得た。モデル事業の高次脳機能障害診断基準を満たす入院患者は58名であり、訓練プログラムAを入院患者6名、外来患者2名で、訓練プログラムBを入院患者1名で実施した。また、高次脳機能障害者に対して病院内のどこでも適切な対応を可能とするための方策を検討した。

(2) 高次脳機能障害外来

平成16年10月から神経内科の特殊外来として高次脳機能障害を専門とする外来を開設し充実した。本年9月末日まで1年間の実患者数は新患85名、再診4名であった。受診後の対応としては、入院訓練24名、更生訓練所入所7名、外来訓練・支援17名、外来受診相談のみ41名であった。

(3) 家族支援

家族学習会を年間11回開催し、講義形式とグループワーク形式で隔月に行い、家族の障害理解の促進に有用であった。また、家族指導を充実させるため、使用中の小冊子と家族向けパンフレットの改訂を行った。

8. 更生訓練所部会

モデル事業の推進

高次脳機能障害者に対する支援を以下のとおり実施した。

- (1) 高次脳機能障害者コースを設け、高次脳機能障害者で身体障害者として認定されていない利用者6名の支援を実施し、モデル事業において作成した標準的社会復帰、生活・介護支援プログラムの実施、検証を行った。
- (2) 身体障害者手帳を所持し、高次脳機能障害の診断を受けた利用者は一般的リハビリテーション課程32名、生活訓練課程2名であり、その外に高次脳機能障害のある一般リハビリテーション利用者が18名であった。これらの合計52名に対して支援を実施した。
- (3) 高次脳機能障害支援モデル事業の中で、更生訓練所では生活訓練、就業準備支援、就業支援の提供を行った。
- (4) モデル事業において「高次脳機能障害者コーディネートマニュアル」作成分担した。

9. 情報収集・提供センター作業部会

高次脳機能障害に関する情報及び知識を周知するとともに、広く共有することを目的としてホームページを運用した。内容は随時更新中である。17年度アクセス件数は平成18年1月までで25,101件で

あった。

HPアドレス：<http://www.rehab.go.jp/ri/brain/index.shtml>

(付表 1) 地方支援拠点機関等連絡協議会及び作業班会議実施状況

会議名称	開催日	開催場所	出席委員数	オブザーバー出席数
第1回連絡協議会	平成17年7月29日	福祉医療機構	52名	30名
第2回連絡協議会	平成18年2月24日	国立身障者リハセンター	51名	34名
第1回企画班会議	平成17年7月29日	福祉医療機構	15名	—
第2回企画班会議	平成18年2月24日	国立身障者リハセンター	11名	—
第1回支援コーディネーター班会議	平成17年7月29日	国立身障者リハセンター	28名	2名
第2回支援コーディネーター班会議	平成17年7月29日	福祉医療機構	27名	19名
第3回支援コーディネーター班会議	平成18年2月24日	国立身障者リハセンター	26名	18名
第1回専門委員班会議	平成17年7月29日	福祉医療機構	12名	4名
第2回専門委員班会議	平成17年2月4日	国立身障者リハセンター	12名	18名
公開シンポジウム：「高次脳機能障害支援モデル事業のまとめと展望」	平成18年2月23日	国立身障者リハセンター	164名	—

(付表 2) 高次脳機能障害者のご家族のための学習会（病院）

	開催日	開催場所	参加者
第1回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」	平成17年6月16日	国リハ本館大会議室	9名
第2回：「グループ討議による家族学習会」	平成17年7月21日	国リハ本館大会議室	5名
第3回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」	平成17年9月1日	国リハ本館大会議室	17名
第4回：「グループ討議による家族学習会」	平成17年9月22日	国リハ本館中会議室	7名
第5回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」	平成17年10月20日	国リハ本館大会議室	15名
第6回：「グループ討議による家族学習会」	平成17年11月17日	国リハ本館大会議室	12名
第7回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」	平成17年12月15日	国リハ本館大会議室	8名
第8回：「グループ討議による家族学習会」	平成17年11月17日	国リハ本館大会議室	12名
第9回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」	平成18年1月19日	国リハ本館大会議室	10名
第10回：「グループ討議による家族学習会」	平成18年2月16日	国リハ本館大会議室	7名
第11回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」	平成18年3月16日	国リハ本館大会議室	13名

(付表 3) 高次脳機能障害支援モデル事業研修会（学院）

	対象者	開催日	開催場所	参加者
第1回	行政・専門職	平成17年10月12日～14日	国リハ学院講堂	144名